

# 外大東北復興支援隊

## TUFS for Tohoku



2011.12.18 クリスマスイベント

### 【About us】

東日本大震災の被害を目の当たりにし、「東北復興のために自分達に何かできることはないのだろうか。」という想いを抱えていた学生4人によって、“外大東北復興支援隊”は4月21日に設立しました。東北が復興するのに何年かかるか分からない今、求められているのは長期的な支援活動です。NGOと協力して、現地から、そして大学から、私たちの活動内容を東京外国語大学学生ならではの 방법으로発信していきます。

私たちは被災された方々の復興の手助けとなる活動を行うことで、被災された方々を支えと共に、学生にとって学びとなる活動を行うことを目的とし、活動を始めました。

設立メンバー代表：吉村健吾（外国語学部ポルトガル語専攻3年）

副代表：鈴木和（外国語学部フランス語専攻3年）

田中大一（大学院国際協力専攻M2）

顧問：船田クラークさん 准教授

現在、大学院生・学部生あわせて約40名の外大生が、宮城県石巻市で活動するNPO法人JEN（緊急支援のための国際NPO）や石巻専修大学の学生ボランティア団体等、他団体のご協力を得て、石巻市でボランティア活動や、当支援隊の顧問を務める船田クラークさんが代表を務める福島乳幼児妊産婦ニーズ対応プロジェクト <http://fukushimaneeds.blog50.fc2.com> のサポートを行っています。

【代表より】

「忘れてはいけないもの」

肌寒さが一段と増し、時には雪がちらつくような季節になりました。季節の移り変わりと同時に移りゆくのは国民の関心でしょうか。現地では今も、震災の爪痕が残っています。それは目に見えるもの、見えないもの、形は様々です。この震災を風化させぬよう、どうか今一度、目を向けてみてください。

ポルトガル語専攻3年 吉村健吾

【活動内容】

①コミュニティカフェプロジェクト：宮城県石巻市中屋敷地区で、現地で活動する NPO 法人 JEN (<http://www.jen-npo.org/>) の運営するコミュニティカフェ「なかやしきっさ」で、地元の方々に情報交換と憩いの場を提供する目的でスタートしました。開始当時は来客がほとんどない状態でしたが、地道な宣伝活動が功を奏したのか、今では子供たちを中心に多くの方に来ていただけるようになりました。

②美浦旅館再建プロジェクト：コミュニティカフェと同じく石巻市中屋敷地区で旅館を経営していらっしゃった三浦啓さん (<http://yoidore082.blog32.fc2.com/>) の旅館再建の応援活動です。津波の被害に遭われた旅館を建て直すため、片付けや修復のお手伝いをさせていただいております。

③移動図書館プロジェクト：石巻市内の小学校4校を移動図書館用のマイクロバス「みずうみ号」で週一回順番に訪問し、地域の方に本の貸し出しのサービス等を行っている渡辺弘明さん (<http://watachildren.blogspot.com/>) の移動図書館運営のお手伝いや、本の寄贈をさせていただいております。



NEW!! ④東松島市学習支援プロジェクト：昨年10月から新しく加わった活動です。同市から依頼を受けた「ボランティアチーム暁（あかつき）」主催の、仮設住宅集会所での小中高生への学習支援（土曜日 16 時～21 時）に協力させていただいております。

【コミュニティカフェでの活動再開について】

昨年10月のコミュニティカフェでの活動中に、メンバーの不注意で娘の指を骨折させ、全治1カ月の怪我を負わせてしまい、コミュニティカフェにおける活動を自粛していました。自粛中は、代表・副代表が交代で、生活・学習支援のため毎日女兒宅に通い、誠心誠意をもって対応に努めました。娘の怪我が再び小学校に通える程度に回復した後、ご家族やこれまでコミュニティカフェに遊びに来ていた地域の子供達の親御さんのご理解を得て、11月12日（土）から無事に活動を再開させることができました。子供と遊ぶ上での危機管理を徹底するために、12月にはNPO法人コドモ・ワカモノまちing 代表理事星野諭さんを講師にお招きし、リスクマネジメントの講義をしていただきました。再開後は、外大生の強味を生かし、民族舞踊や各専攻語・留学生の出身国の言語や文化を子供たちに紹介する安全かつ楽しい企画を毎週用意しています。私たちの活動を通して、カフェを訪れる子供たちの笑顔が戻り、子供たちの楽しんでいる様子を見た親御さんやご近所の方々にも笑顔の輪を広げていきたいと思っています。

副代表 フランス語専攻3年鈴木和

【顧問・船田先生より】

本ニュースレターも第4号となりました。昨年4月の新学年度開始早々、東北の現状と東京のギャップに直面した東北出身の学生たちとブレーストーミングする中で出てきたこの活動も、初期の「よちよち歩き」から、立派に独り立ちし、多くの人々の共感や励ましを頂いて、ここまでたどり着くことができました。それもこれも、代表・副代表をはじめとする学生ボランティアの皆さんの熱意と努力、そしてこの活動を温かく見守り、応援してきてくださったご家族、本学教職員、卒業生、その他の皆さんのご協力のお蔭です。そして何よりも、石巻をはじめとする東北の皆さんの温かい受入れと、忍耐強い見守りのお蔭です。この場をお借りして、ご協力頂いてきた皆さまに、心よりのお礼を申し上げます。

冒頭に説明があります通り、10月に起きた事故は、外大東北復興支援隊に大きな試練となりました。怪我をされたお子さんやそのご家族には本当に申し訳ないこととなり、顧問としても責任を感じております。今後も、支援隊共々、誠心誠意対応し続けたいと思います。事故発生の10月以来、支援隊として対応に追われてきましたが、その一方で、学生たちはこれを教訓とし、しっかり次につながる活動を継続・発展させてきました。その様子は次頁以降にご覧いただけるかと思えます。

精神的に辛いことも多々あったと思いますが、学生たちは、お互いに助け合い、大きく成長する姿を見せてくれました。以前よりもよい活動、多くの仲間を獲得したことにも、それは表れています。正直いって、そこまでやれると思っていませんでした(!)。「いまだきの若者は…」といわれることも多いですが、「いまだきの若者」のもつ優しさや責任感、可能性に心を動かされた者として、ぜひ皆さんにもこれらの若者たちのことをもっともっと知っていただき、そして応援していただければと思います。

また、世界の言語・文化の学習や留学生との共学といった本学ならではの特徴が活かされた活動も取り入れられるようになり、団体名にある「外大」に相応しい活動に発展しつつあります。参加する学生の広がりや、学生の感想にも表れている通りです。学年が入れ替わる春休みは正念場となりますが、東北の現状はまだまだ厳しいものがあります。これまで活動に参加してこなかった学生の皆さんも、是非一度参加してみてください。また、ご協力いただいている皆さんも、引き続きどうぞよろしく願いいたします。



最後になりましたが、石巻の皆さま。学生たちを温かく受け入れてくださり、本当にありがとうございます。いつも行かせていただく度に、皆さま方のご理解と温かさに感謝の気持ちでいっぱいになります。しっかりしてきたとはいえまだ学生。色々ご迷惑をおかけしたり、足りない点もあるかと思いますが、遠慮なく厳しくご指導いただき、引き続き温かく見守っていただければと思います。

(顧問 船田クラースンさやか)

## 【活動をふりかえって】

### ○東松島市学習支援

12 月半ばに、東松島での学習支援に参加しました。集会所にテキストを持ってきた小学生から中学生の生徒たちはすぐに勉強を始め、次々とプリントを提出してくれたので、私は採点にてんやわんやでした。寒い中やってきて、数時間頑張って勉強し、勉強を終えると待ってましたとばかりにまた寒い外に飛び出していく子供たちの元気の良さにとっても励まされました。

(アラビア語専攻 2 年 田邊瑞穂)

この活動に参加するまで、勉強を誰かに教えるという経験をほとんどしたことがなく、忘れていた記憶を絞り出してみんなと一緒に考えてみました。子供たちにとってとても頼りない先生だったと思いますが、小学生から高校生までみんな時間いっぱい、集中力を切らすことなく取り組んでいました。一生懸命勉強する姿をみて、みんなの真剣さに応えなければならないと身の引き締まる思いがしました。

(ヒンディー語専攻 2 年 上條美奈子)



### ○クリスマスイベント



12 月 18 日に当団体は、『なかやしきっさ』にてクリスマス・パーティを開催しました。ツリーのオーナメント作りや飾り付け、ケーキのデコレーションやゲーム等盛りだくさんの内容で、子供と大人が共に楽しめるパーティになったと思います。いつも元気で騒がしい子供たちが真剣になって何かに取り組む様子も見る事が出来ました。今年も人々の笑顔を絶やさない活動を続けていくため、より一層努力していきたいと思えます。

(ベトナム語専攻 3 年 小早川梨央)

【支援隊参加のきっかけ】「被災地に行って、どんな形でも良いから役に立ちたい！」という想いのもと、活動に参加させて頂きました。

【活動内容】被災地の子供たちを対象としたクリスマス・パーティ企画に携わりました。私は準備にしか参加することができなかったのですが、子供たち、復興活動に励む現地の方・外部の方など、支援隊の活動を通して多くの人々と触れ合うことが出来ました。

【活動に参加して思うこと】現地で、人間の「温かさ」を心底感じました。被災地を「元気づけたい」と思っていた私ですが、逆に現地の方々に元気を頂いた気がします。このようなことを感じる事が出来たのも、支援隊の皆さんのおかげです。この度は、本当にありがとうございました！

(総合国際学研究科地域・国際専攻博士前期課程 2 年 伊藤圭)

○コミュニティカフェの活動に参加した留学生より

I am an exchange student from Turkey. Since November I became a volunteer for "TUFS for Tohoku volunteering group" and I believe this group is a great chance to go to Sendai, Ishinomaki and witness how strong people are. To be a part of their solidarity was a great experience. I have been there for just one weekend, played with kids in Nakayashi Cafe and worked with the owner of a Japanese style inn to help him rebuilding the inn. During night we stayed in the Cafe, we ate and cleaned together as a big family. With the warmth of children and hospitality of people who runs the cafe, I felt like "home" since I came to Japan. I'm looking forward to go there again with volunteers from TUFS for Tohoku!!

(I-SEP トルコ人留学生 Cankız Çevik)



When I heard that there is a group at TUFS who is going to Tohoku and helping people I went to the next meeting right away. Because there was so much confusion in the media in Europe about the disaster, not only because of the severe danger of Fukushima Nuclear Plant, I needed to visit this area with my own eyes in order to see the situation, and more important, the condition of the inhabitants.

When I went to Ishinomaki for the 16th and 17th December 2011 I was stunned by the severe damage the tsunami still leaves behind half a year after. But I was also amazed by the strong belief in life of the people and pure joy the children had when they were playing with me. These people have lost so much, but they continue cherishing life.

This fortitude is what impressed me most and I am glad that I could see it with my own eyes. (I-SEP ドイツ人留学生 Lars Thielen)



**My experience in 東北。**

When I saw in Spain all the news related with the 大地震, I felt the necessity of going to Japan to help the people who suffer the disaster. At that time I could not come to Japan because I was in Spain, but now I have the chance to come and help, that's why I enrolled in the volunteer group of 東京外国語大学.

For me the best experience has been helping people and share my time with the kids of 石巻. When I see children's smiles I feel happy and I think that what I am doing really worthy.

僕は大地震が起きた時にスペインで災害のニュースを見ながら東北の人々を手伝いたいと思っていました。その時に東北の人々を手伝うために日本に行けませんでしたので、留学をしたら必ず東北に行くと思いました。それで東京外国語大学のお陰でボランティアとして石巻の人々を手伝うことが出来ました。

僕には一番大切なのは子供たちの笑顔です。僕は子供たちと一緒にゲームや宿題などをする時に凄く嬉しくて僕がしたことは価値があると思います。

ダニー

(I-SEP スペイン人留学生 Daniel García)



**Ishinomaki report**

My name is Javier, and I am an Exchange Student in TUFUS. When I saw there was an association in our University which was doing volunteering in Tohoku I was so interested in participating, and I have to say it was such a great experience to do it. Since I am living in Japan, I feel so glad to help in whatever I can to the people who was affected for the earthquake. It was a tragedy, and from Spain we all felt so sorry about that terrible situation. When I went to Ishinomaki, all the people were so friendly and I really appreciate their hospitality. They are working so hard to return to their normal lives, but always with a smile in their faces. Studying and playing with the kids, helping in the Ryokan which was damaged... I am glad to have contributed, even if it has been just a little thing, it was really worth. 心からがんばって東北！

(I-SEP スペイン人留学生 Javier Rodríguez)



2011年12月18日(日)に開催したクリスマス・パーティの様子が、宮城県の新聞に取り上げられました。以下に掲載させていただきます。

【東京外語大生が支援 子どもたち一緒 Xマスを楽しむ】

平成23年12月25日付 三陸河北新報 石巻かほく



- 東京外国語大の学生有志らで組織する「外大東北復興支援隊」(隊長・吉村健吾さん)が18日、石巻市中屋敷地区コミュニティスペースでクリスマス会を開いた。子どもたち約20人とツリーの飾り付けやクリスマスカード作りなどに取り組んだ。
- 仙台市出身の鈴木和さん(フランス語学科3年)、いわき市出身の吉村隊長(外国語学部ポルトガル専攻3年)をはじめドイツ人の留学生ら7人が参加。
- クリスマスカード作りでは吉村さんの「お母さんやお父さんに感謝の言葉を贈りましょう」という合図で、子どもたちが思い思いの言葉をフェルトペンで走らせた。
- 妹と一緒に訪れた釜小5年の高橋実夏さん(11)は「みんなと一緒にのクリスマスはとても楽しい」とにっこり。昼食では、たこ焼き、ごぼうめし、豚汁、ケーキなどを味わい、笑い声が絶えなかった。

●外大東北復興支援隊は3~6人でチームを編成。5月初旬から小中学生を対象に学習支援をしているほか、話し相手や遊び相手など、心のケアにも貢献。子どもたちや保護者から感謝の言葉が寄せられている。来年以降も支援を続ける。

(写真) 東京外大生と一緒にクリスマスカードを作る子どもたち=石巻市中屋敷

三陸河北新報社：1980年(昭和55年)、河北新報の姉妹会社として設立。石巻市報2市1町(石巻市、東松島市、女川町)を販売エリアに47,000部を発行しています。

### 【協力団体】

福島乳幼児妊産婦ニーズ対応プロジェクト <http://fukushimaneeds.blog50.fc2.com>  
特定非営利活動法人ジェン（JEN） <http://www.jen-npo.org/>  
WataChildren <http://watachildren.blogspot.com/>

### 【寄付金ご協力のお願い】

当団体では継続的・長期的な活動を目指しているため、交通費など多くの資金を学生だけで負担するのは厳しい状況にあり、一〇一〇万円からの寄付金を募ることで、皆さまのご協力のもとボランティア活動を行っております。皆さま方に私どもの活動経費のために寄付金のご協力をお願いするのは、大変厚かましいことと存じておりますが、ご寄付をいただくとありがたいです。（\*一〇万円以下のご寄付についても、もちろん受け付けております。）

ご協力頂ける方は、当団体連絡先：[tufs.tohoku2011@gmail.com](mailto:tufs.tohoku2011@gmail.com) までご連絡ください。ご都合のよろしい日時・場所をご指定くだされば、代表の吉村か副代表の鈴木、または他のメンバーがご指定の日時・場所にご寄付をいただきに参ります。

また、当団体の振替口座へ寄付金を振り込んでいただくこともできます。振替口座への振り込みをご希望される方は、振替払込申込書をお届けに伺いますので、上記の連絡先までご都合のよろしい日時・場所をご連絡ください。

振り込み先：振替口座記号番号 00150-8-566431 / 加入者名 外大東北復興支援隊  
ATM・銀行からお振り込みされる方は、ゆうちょ銀行 店名：019（府中紅葉丘支店） / 預金種目：当座 /

口座番号：0566431 とご記入ください。

頂いたご寄付については、大切に管理、使用させていただきます。また本ニュースレターやメールにて、定期的に活動及び会計報告をさせていただいております。何かご意見やご質問がございましたら、上記の連絡先までご連絡ください。

いたらない点多々ありますが、ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。お忙しい中、最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

### ☆活動メンバー募集中☆

私たち外大東北復興支援隊は、現在活動メンバーを募集しています。石巻市でのボランティア活動の他にも、イベントの企画・運営や外語祭に向けた準備等、被災地へ直接赴かなくても参加できる活動はたくさんあります。

外大東北復興支援隊に参加したい方、興味がある方は毎週水曜日のお昼休みに 106 教室で活動報告会を行っておりますので、ぜひ話を聞きに来てください。

お気軽に弊団体連絡先：[tufs.tohoku2011@gmail.com](mailto:tufs.tohoku2011@gmail.com) までご連絡ください(^o^)

外大東北復興支援隊ニュースレター 第4号 2012年1月27日発行

編集者：吉村健吾、鈴木和、和田梨紗子

発行所：外大東北復興支援隊（東京都府中市朝日町3-1-1 船田クラークン研究室）

E-mail：[tufs.tohoku2011@gmail.com](mailto:tufs.tohoku2011@gmail.com)

ホームページ：<http://www.tufs.ac.jp/st/club/tufsfortohoku/index.html>